令和６年度　南阿蘇中学校　学校だより

夢湧き、夢に夢中

第１号

令和６年４月17日　文責：大谷

四月一日の朝、いつものように身支度をして自宅の駐車場から車を滑らす。最初の曲がり角、いつもなら右折するところを、この日は左にハンドルを切った。

「ドクン」となる心臓。南阿蘇中学校に赴任することへの喜びとともに、どこかいつもとは違う緊張感が全身を駆け巡る。

「不安なことばかり考えていてもしょうがない。とにかく、やるしかないんだ」

そう何度も自分と対話しながら車を走らす。阿蘇の山々が目に飛び込んでくる。鮮やかな新緑。しかし、この日の山の色は、わたしには淡くでしかなかった。

▼本校に赴任することが決まった後、わたしは「震災ミュージアムKIOKU」へ足を運んだ。私の住まいは大津町である。南阿蘇村とはお隣同士ではあるが、当時の状況は、まるで異なるもので、頭ではそのことは分かっていたつもりだったが、実際に目で見たり、ガイドさんのお話しを聞いたりすることで、改めて学ぶことができた。

また、その当時のことを振り返りながら、あの時、五歳だった娘の一言が脳裏に浮かぶのである。

「このおにぎり、あったかい」

自衛隊の方々が炊き出しをされていた避難所でいただいたおにぎりを大事そうに両手で抱えながら、満面の笑みで語りかけられたこの一言に、わたしはどれだけ励まされてきただろうか。と同時に、当時幼かった南阿蘇中学校の生徒たちも、間違いなく家族はもちろん地域の多くの人たちに、力を与えてきてくれたのだろうと思えたのである。

「自分が一途に何かに向かって頑張っている姿は、実は自分が思っている以上に、多くの人たちにとって特別なもの」なのである。

そこで、わたしは、本校の学校教育目標を立てるべく、何か南阿蘇中学校にぴったりのワードがないか、脳内の引き出しを片っ端から探した。そして、探し当てたワードが、「夢」だった。「どんな些細な夢でも、それが叶うと嬉しいし、そこから、さらに新しい夢を持てたら、きっとワクワクするような毎日が送れるはず」

そう思い、「夢を叶えることに夢中になってほしい」との願いから「夢を叶えることに夢中になれる生徒の育成」とした。

しかし、一目見て、もっと南阿蘇中らしさがないものか。そう思いながら、別の用事で校区を車で回る機会があったので、何気なく車窓からの景色に目線を送った。すると、至る所に水源があることに気付いた。

「そういえば、先日、村長さんのお話の中にも、南阿蘇村は、地下水が豊富な『水の生まれる郷』とおっしゃってたな・・・・。そうだ！」

こんこんと湧く水のように、生徒たち一人一人にも、次から次へと叶えたい夢が湧いているような学校にしたい。そんな確固たる決意を示すべく、令和六年度の南阿蘇中学校の学校教育目標を次のようにした。

「夢が湧き、夢を叶えることに夢中になれる生徒の育成」

▼四月一日以来、自分にとってどこか淡い色でしかなかった山々の景色に、やっと本来の彩りが戻ったように見えてきて、胸が躍った。「二三三人の夢を、この新緑の青さよりも輝かせたい」令和六年度の始まりである。

初めまして。この度の定期異動により、菊池教育事務所からまいりました、大谷　浩介と申します。教科は保健体育で、長年サッカーに没頭する日々を過ごしてきました。阿蘇管内での勤務は初めてですが、それがかえって自身を「初心」へ塗り替えてくれているようにも思えます。１年間、まずは私自身が夢を叶えることに夢中になれるよう頑張りますので、保護者の皆様のご理解とご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。